

..... 編集後記 .....

◆ 産総研 特別顧問の石原舜三さんを介して、このほど茂木 睦さんによる「ブータンとその周辺の地質」が寄せられました。茂木さんは国際協力事業団の専門家としてブータン地質調査所(GSB)に派遣され、2年余りに亘って同地の地質調査とGSB職員の指導に従事されました。その際の報告書用としてまとめられたものを、特に本誌のためにとご寄稿いただいたものです。

これまでも「秘境」とされ、データに乏しかったブータンの系統的で詳細な地質の記載を、本号と次号の2回に分けて掲載いたします。表紙・口絵の写真も併せて、秘境ブータンに想いをはせながらお読みいただければと思います。

◆ 地球環境を考える上で、表層部の温度を知ることが大切な要素の一つです。とりわけ、地質時代の地球環境(古環境)の研究には古い時代の海水温度が重要な手懸りとなります。そのために、いろいろな種類の海棲生物化石の同位体比が測定されていますが、有孔虫の殻も有用な対象です。

有孔虫殻の酸素同位体比から古海水温を精度よく推定するには、どのような工夫がなされているかが、次の記事(川幡)で語られています。

◆ 我が国最大の流域面積を誇る利根川は、その治水と水運とを図る河川工事の永い歴史を持っています。水運のために構築された今に残る建造物の

探訪記(須藤)がその次の読み物です。

江戸時代以前の利根川が東京湾に注いでいたことを、今日どれだけの人が知っているでしょうか。利根川を太平洋へ押しやったいきさつを含めて、構造材の変遷などもさりげなく添えられ、読者を小さな旅へ誘う格好のガイドにもなってくれそうです。

◆ 河内洋佑さん訳による「ブライアン・メースン自伝」の2回目をお届けします。

大学院で化学を専攻する傍ら、ニュージーランド地質調査所の野外調査助手を勤め、地質学にも目覚めてゆく姿が語られています。室内実験の学生の経費は大学持ちなのに、地質学専攻の学生が手弁当で野外調査に出なければならぬ不公平を思い、後に地質調査の学生のための基金を創設したくんだりなどは、メースンの優しさを物語るものでしょう。次回が楽しみです。

◆ 「いとしのカランサンブン」(脇田)では、ジャワ島の秘境(?)カランサンブンでの生活が軽妙に紹介されています。ここにはインドネシア各地の大学で地質学を学ぶ学生が一同に会して合宿する施設があり、その理由が「他には教育的露頭がない」からというのは妙に説得力がありました。切通しの壁をすぐにコンクリートで巻いてしまうどこかの国も、教育的露頭がなくなってしまうのであればいいのですが。

(遠藤祐二)

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二

副委員長：谷田部信郎

委員：磯部一洋・七山 太・中島 隆・

安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 0298-61-3754

Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第567号	2001年	11月号
	定価¥785(本体価格¥748) ㊦実費		
2001年11月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 ㊦102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2001 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ